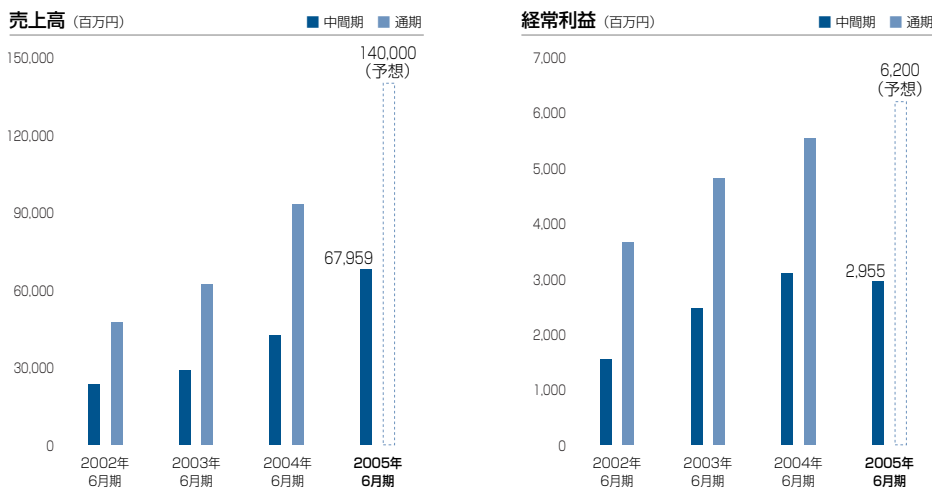




第 **11** 期 中間事業報告書

2004年7月1日から2004年12月31日まで

連結売上高60%成長。予想連結経常利益を9.4%上方修正。



連結売上高は、前年同期より254億95百万円増加して679億59百万円になりました。(前年同期比60.0%の増加)

連結経常利益は、前年同期より1億52百万円減少して29億55百万円になりました。(前年同期比4.9%の減少)

将来的な売上拡大や、マーケットシェア保持のための新規出店の加速など、先行投資を負担しての結果です。

人材ビジネスと介護ビジネスという2つの成長事業の業界における「勝ち組」として、確固たる地位を確立しつつ、業績も好調に推移しております。

業績好調のメインドライバーとなっている、「グッドウィル」の人材ビジネスは、景気回復に伴う旺盛なクライアントからのニーズに対応し、コンスタントに高成長を続けており、東証一部上場による認知度・信用力の向上や積極的なテレビコマーシャルの投下などにより「グッドウィル」のブランド力も近年向上しております。

介護ビジネスにおきましては、業界内における圧倒的な「コムスン」という認知度・ブランド力を背景に、マーケティング・リクルーティングにおいて有利な環境下、業績を拡大させております。訪問介護を中心とした「在宅介護事業」の拡大に加え、ニーズが顕在化している「施設介護事業」にも対応し「総合介護事業者」としてサービスのフルラインナップ化により他事業者との明確な差別化をしております。

2つのコアビジネスとともに、拡大する需要に対応すべく積極的な新規出店等の先行投資を加速させております。初期投資コストの負担を吸収しつつ、今中間期は売上・利益ともに成長を継続しております。特に、トップライン・売上は高い伸びを記録しました。

目次	1 中間連結決算ハイライト
	2 トップメッセージ
	5 人材ビジネスの状況
	7 介護ビジネスの状況
	9 中間連結財務諸表 (要約版)
	12 中間単体財務諸表 (要約版)
	13 会社データ
	14 株式情報

■ 業績予想に関する注意事項

本誌に記載されている予想数値については、本誌作成段階において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、記載した予想数値と異なる場合があります。

潜在規模が大きく、成長が期待されるマーケットにて
圧倒的なNo.1を目指します。



ご挨拶

株主の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当グループは、おかげさまで2005年2月1日に設立10周年を迎えました。ゼロからのスタートから、今期は連結売上高1,400億円を予想しております。

全社員が、創業時からの社である『ベンチャースピリット』を忘れず、「常に当事者たれ」という意識を持ち続け、業務に邁進したいと思っております。今後の当社の成長にご期待ください。

グッドウィル・グループ株式会社
代表取締役会長 兼 CEO

折口 雅博

Q1 「グッドウィル・グループ」の 第11期中間期の 事業概況について

A わが国の経済環境については、概ね景気回復局面にあり好調に推移するものと思われませんが、原油価格の不安定な動向や、為替の変動など不透明要因も多く、先行きについては楽観視できない状態が続くと予想されます。

しかしながら、当社グループのコアビジネスである人材ビジネス及び介護ビジネスにおいては、マーケットの拡大とニーズの高まりから堅調に推移してまいります。

人材ビジネスにおきましては、より効率的な経営を企業が目指し、固定費を変動費化する傾向を加速させ、またアウトソーシングに対する認知度も向上しており、今後いっそうの拡大を予想しています。

人材関連ビジネスにおきましては、あらゆる顧客ニーズに対応すべくサービスのフルラインナップ化を図っており、製造業向け派遣事業や技術者派遣事業、採用支援事業、再就職支援事業、シニア派遣事業、社員カウンセリング事業などビジネスモデルの再構築を含め拡大させています。

介護・医療ビジネスにおきましては、介護保険の認知度の向上と浸透により、また高齢者人口の増加とともにマーケットは拡大を続けており、その環境下、「コムスン」のブランドの醸成と認知度の向上を背景に、訪問介護を中心とした在宅介護や施設介護、ともに高まる需要を取り込むべく、積極的に先行投資を行い、供給力を整備し、業績は好調に推移しています。

Q2 人材ビジネスの 経営環境について

A 需要の拡大に対応して、供給を整備すべく、具体的には新規出店を前期に引き続き加速させています。

今中間期に210支店増加し、今中間期末には710支店となっております。今期末予想支店数の700支店を既に上回っており、今後も引き続き積極的な新規出店を加速させてまいります。

また、登録スタッフの確保という点でも、従来のきめ細かい採用広告に加え、テレビコマースも有効活用し、登録スタッフ数は今中間期22万人増加し、今中間期末160万人を突破しています。

Q3 **A** 仕事を求める人と企業の人材ニーズを地域・スキル・期間など様々な要素に対して効率的にマッチングさせることに当社は圧倒的な強みを持っています。優れたITシステムと膨大なデータベース量を使い、精度の高いマッチングを可能にすることにより、企業サイドからはコストダウン、登録スタッフサイドからは働き方の新しい提案と、双方にメリットを享受できるシステムとなっています。このマッチングシステムの使用により業務領域の拡大、サービスメニューの拡充も図れています。

2004年3月からの製造業への一般派遣解禁なども追い風となり、派遣に対する認知度向上も今後の市場拡大に有利に働くと考えられます。潜在市場規模の大きさから、業容は拡大を継続できると考えています。

Q4 **A** 介護・医療支援事業につきましては、介護保険の認知度の向上と浸透により、高齢者人口の増加とともに、マーケットは拡大しており、その中においてもコムスのブランドの醸成と認知度、マーケティング力の強化を背景に、訪問介護を中心とした在宅介護、施設介護とともに、前期に引き続き積極的な新規出店及び先行投資を加速させております。

訪問介護においては、訪問介護新規拠点開設を進め、今中間期に109拠点増加し、今中間期末には913拠点体制となっております。今後も引き続き積極的な新規拠点開設を加速させてまいります。

訪問介護顧客数においては、今中間期に7,510名増加し、今中間期末には55,941名となっております。また、ケアスタッフにおいては、今中間期に3,941名増加し、今中間期末には16,334名となっております。

施設介護事業においては、介護保険の浸透や高齢者の「老後の住まい方」に対する意識の劇的な変化から、施設介護に対するニーズが顕在化しており、市場規模は急拡大の状況にあります。「コムス」ではいち早く、痴呆高齢者を対象とした「グループホーム」に対して積極的に取り組みを開始し、今中間期に22施設増設し、今中間期末102施設となっております。全体入居率は、89%と高い水準を維持しています。また、「有料老人ホーム」においては、今中間期に1施設増設し、今中間期末4施設となっております。既存3施設は、常に満室状態であり、既にビジネスモデルが確立されており、安定的な収益が期待されます。

また、今後の方針として将来的なマーケットシェアを獲得することを最優先しております。これまで蓄積された企業体力の増加により、今後予想される「介護保険」の制度見直しや報酬単価改定などの変化対応力においても相対的に他事業者と比較して優位なポジションにあると認識しております。

Q5 **A** 急速な高齢化に伴い、介護市場は急成長を続けています。介護保険も創設から5年が経過し、介護保険の予算規模も2004年度5.5兆円から2015年には20兆円を超える予想されています。その推移が示すとおり、介護市場は長期間にわたり成長が期待されます。

2004年7月以降、介護保険の改革案が提出され、

- ① 支援・要介護1の軽度要介護者の家事援助のみのサービスを制限して筋力トレーニング・食事改善指導・口腔ケアなどの介護予防メニューを給付対象。
 - ② 地域密着型サービスの創設。市町村単位でのサービスの整備。
 - ③ 特養や老健などの公的施設に対するホテルコスト徴収。
- など見直しの要因を含んで推移しています。

「コムス」ではむしろ、この機会を新たなビジネスチャンスと捉えています。変化や規制が厳しくなればなるほど、相対的に変化対応力に勝る「コムス」にとっては有利である



コムスホーム海老名

■ 人材ビジネス

（株）グッドウィル

軽作業請負から製造業のライン請負、事務派遣、ドライバー派遣、技術者派遣などの総合人材サービス業。

（株）ソア

市場調査、販売支援、展示会など企業のマーケティング戦略全般を支援するセールス・プロモーション業。

（株）グッドウィル・キャリア

ヘッドハンティングを始めとした総合人材紹介から入社後の人材をフォローするコンサルティングサービス業。

（株）グッドウィル・フォーサイト

社員カウンセリングプログラム事業や社員研修、キャリアカウンセリングなど行う人材支援コンサルティングサービス業。

（株）グッドウィル・エンジニアリング

機械・電気・電子・情報処理・制御の各分野において、高いスキルを持つ人材を提供する、エンジニア派遣サービス業。

ヒュー・マネジメント・ジャパン（株）

クライアント企業のきめの細かいニーズに対応する再就職支援事業と能力の高いシニア層を対象とした派遣事業。

■ 介護ビジネス

（株）コムスン

24時間体制の在宅介護サービス、グループホームや有料老人ホームなどの施設介護を行う総合介護サービス業。

（株）コティ

企業内保育施設の受託運営、ベビーシッターサービス、全国展開の直営保育室事業などの総合保育サービス業。

アドホック（株）

ペットケア付アパート・マンション事業、ペットケアショップを全国展開する総合ペットケアサービス業。

（株）マッサージ師事務代行センター

訪問療養型マッサージ。あん摩指圧師のご紹介サービス業。

（2004年12月31日現在）

と考えています。制度変更や見直しなど、いかようにも変化に対応すべく、万全の準備・シミュレーションを行っています。

Q6 **A** 当グループは「人材ビジネス」と「介護ビジネス」の2つをコアビジネスとして成長を

折口会長の

グループ経営専念について

続けていますが、今後両分野においてさらなる競争激化・変化が予想されています。

グループ経営の意思決定と各事業における業務執行を明確に分離することが、

①事業の独自性重視や意思決定のスピード化、機動性について大変有効であると考えられること。

②企業価値の最大化を目指すために、事業ポートフォリオの最適化を図れること。

③各事業部門が事業環境の変化に俊敏に対応できる権限委譲体制が確立されること。

以上を主な目的として2004年8月に純粋持株会社に移行しております。

引き続き、2005年1月から私がグループ経営に、より専念する体制になることによって、各事業会社の拡大がスピード化され、グループ内の運営もさらに効率化されると考えています。

マッチングの高い精度と質的、量的な充実を図ります。

株式会社グッドウィルの当中間期業績

(2004年7月1日から2004年12月31日まで)

■ 売上高

売上高は、前年同期より155億37百万増加して398億60百万円になりました。
(前年同期比63.9%の増加)

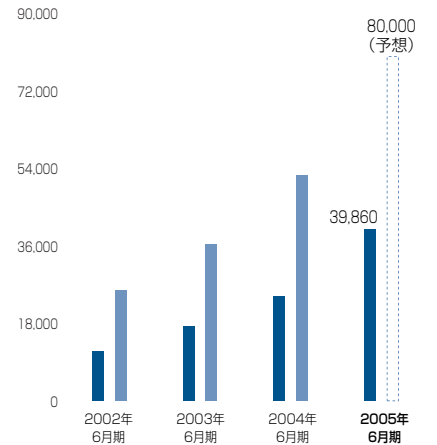
■ 経常利益

経常利益は、12億76百万円増加して37億96百万円になりました。
(前年同期比50.7%の増加)

■ 中間純利益

中間純利益は、2億58百万円増加して17億29百万円になりました。
(前年同期比17.6%の増加)

グッドウィルの売上高推移 (百万円) ■ 中間期 ■ 通期



当中間期の取り組みと成果

総合人材サービス業として、お客様のニーズにきめ細かく応えるべく、サービスメニューの多様化を図ってまいりました。また旺盛な需要に対応すべく、従来のリクルーティングマガジンによる採用広告に加え、テレビコマーシャルを積極的に展開し、ポータルサイト「mobaito.com」やフリーダイヤル「0120-55-9101 ゴーゴー・グッドウィル」の認知を進めました。その効果は、リクルーティングでもマーケティングでも有効に機能しております。

結果、効果的な広告展開を実施することができ、登録社数は前期末の30,291社から4,867社増え、35,158社、支店数は前期末の500支店から210支店増え、710支店、登録スタッフ数は前期末の138万人から22万人増の160万人となりました。

2004年3月からの製造業派遣の解禁に伴い、派遣に対する一般認知も追い風となり、人材ビジネスにおきましては、より効率的な経営を企業が目指し、固定費を変動費化する傾向を加速させ、またアウトソーシングに対する認知度も向上しており、今後いっそうの拡大が予想されます。

人材関連ビジネスにおきましては、あらゆる顧客ニーズに対応すべくサービスのフルラインナップ化を図っており、製造業向け派遣事業や技術者派遣事業、採用支援事業、再就職支援事業、シニア派遣事業、社員カウセリング事業などビジネスモデルの再構築を含め拡大させていく方針です。

また、再就職支援大手のヒュー・マネジメント・ジャパン(株)を子会社化し、多様化するクライアントニーズに対応すべく、サービスメニューの拡充を図ってまいりました。なかでも前期に新規展開しました、飲食店における、ホール作業等を請け負うフードキャスト事業が大変好調で、また、スーパーやドラッグストアなどの流通業界向けへの人材サービス事業なども新たに展開しております。

通期の見通し

わが国の経済環境については景気回復局面にはあるものの、先行きについてはまだまだ楽観視できない部分も多く、不安定な状況が続くものと想定されます。しかしながら、グッドウィルの属する人材サービス業界については、ニーズの高まりもあり、堅調に推移していくものと思われれます。

こうした状況の中で通期については引き続き、長期的な拡大発展を視野に入れた新規事業の育成や、積極的な新規出店などの先行投資を積極的に行ってまいります。

通期の見通しといたしましては、売上高800億円を見込んでおります。

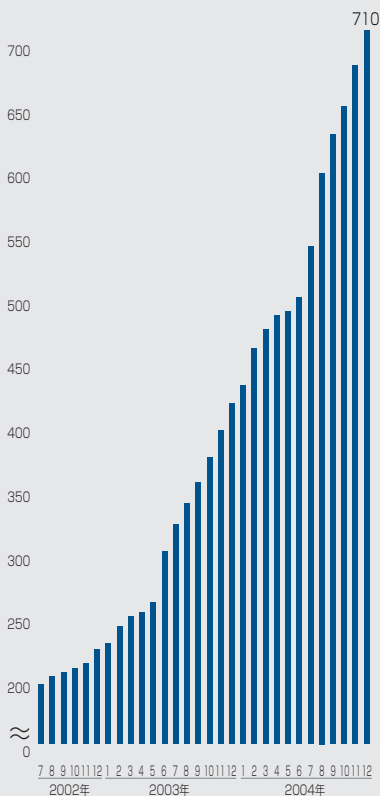
コンペティターに対して、圧倒的な優位性を保つため、今後も可能な限り新規出店は加速させ続ける予定です。

グッドウィルの主なサービスフィールド

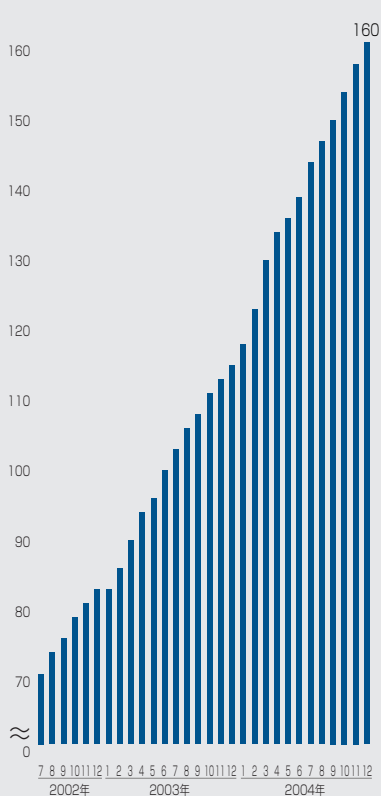
- **製造**
製造ライン／検査ライン／梱包ライン
- **倉庫**
構内作業／入出庫／倉庫フルアウトソーシング
- **引越・事務所移転**
一般引越・事務所移転
- **ドライバー・フォークリフト**
ルート配送、軽貨物宅配／中長距離便
- **サービスステーション**
給油／洗車／キャンペーンスタッフ
- **建設・内装**
搬入出／設置・撤去／清掃
- **施工**
会場設営／オフィス・店舗什器施工／家具工事
- **販売促進**
サンプリング・販売支援
- **マーケティング**
アンケート調査・交通量調査
- **IT関連**
PCセットアップ／ヘルプデスク／ソフトウェア開発補助／WEBプログラム
- **一般事務**
一般事務、営業事務
- **営業派遣**
新規獲得／ルートセールス／企画提案営業／証券外務員／アウトバンドコール
- **アミューズメント**
パチンコ店運営、アミューズメント施設運営
- **ストア**
百貨店やコンビニエンスストア等の販売／品出し／レジ／受付／催事／バックヤード業務
- **外食産業**
居酒屋やファーストフード等のホール作業・調理作業・販促作業
- **警備**
誘導／保安・巡回
- **メディカル**
医師、看護師、薬剤師、医療事務（医療法人向けの紹介予定派遣）
臨床検査技師、薬剤師、看護師等（法人向けの派遣・紹介予定派遣）
- **シニア派遣**
豊富な経験、専門知識のあるシニアの活用
- **パートレディ**
パートタイマーと同じように配置ができ、しかも法規改正時の対応などの煩わしさから開放されます。

(2004年12月31日現在)

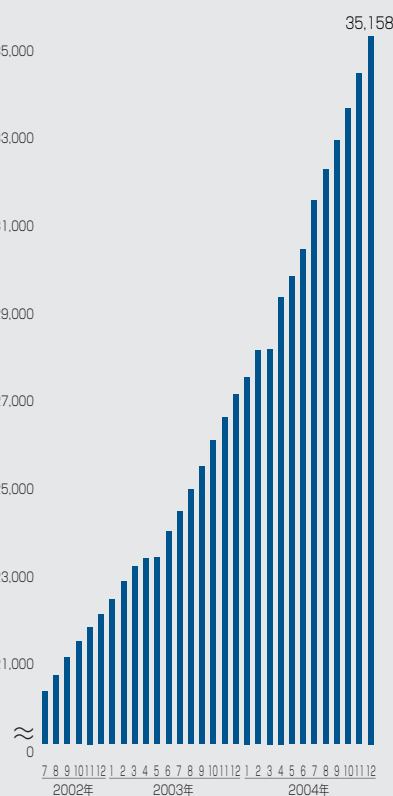
支店数の推移 (店)



登録スタッフ数の推移 (万人)



登録社数の推移 (社)



介護ビジネスの状況

コムスのブランド力・認知度を活かし、在宅介護・訪問介護をベースに、施設介護やサービスフィールドを拡大します。

株式会社コムスの当中間期業績

(2004年7月1日から2004年12月31日まで)

■ 売上高

売上高は、前年同期より78億45百万円増加して、242億29百万円になりました。

(前年同期比47.9%の増加)

■ 経常利益

経常利益は、4億75百万円増加して12億40百万円になりました。

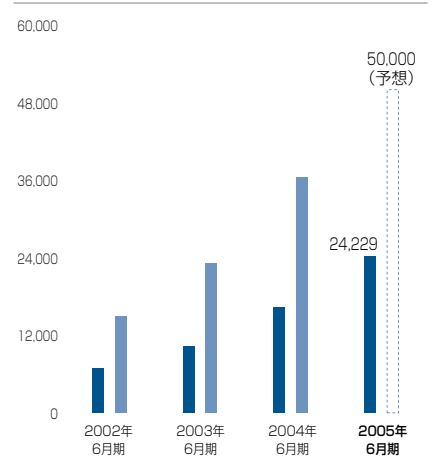
(前年同期比62.2%の増加)

■ 中間純利益

中間純利益は、5億46百万円増加して10億72百万円になりました。

(前年同期比143.3%の増加)

コムスの売上高推移 (百万円)



当中間期の取り組みと成果

急速な高齢化に伴い、2004年の介護保険市場規模5.5兆円から2015年には20兆円が見込まれています。今後も市場は拡大を続けると予想されています。

介護事業は訪問介護を中心とした在宅介護事業と施設介護事業、2つの事業分野を柱としております。

在宅介護事業につきましては、引き続き、訪問介護サービスへの旺盛な需要に応えるため、拠点数の拡大、ケアマネジャー及びホームヘルパーの採用・育成に力を入れ売上・シェアを拡大してまいりました。

訪問介護新規拠点開設を進め、今中間期に109拠点増加し、今中間期末には913拠点体制となっております。また、ケアスタッフにおいては、今中間期に3,941名増加し、今中間期末には16,334名となっております。訪問介護顧客数においては、今中間期に7,510名増加し、今中間期末には55,941名となっております。

施設介護事業においては、介護保険の浸透や高齢者の「老後の住まい方」に対する意識の劇的な変化から、施設介護に対するニーズが顕在化しており、市場規模拡大の状況にあります。

「コムス」ではいち早く、痴呆高齢者を対象とした「グループホーム」に対して、前期より積極的に取り組みを開始し、今中間期に22施設増設し、今中間期末102施設となっております。全体入居率は、89%ときわめて高い水準となっております。

また、「有料老人ホーム」においては、今中間期に1施設増設し、今中間期末4施設となっております。既存3施設は、常に満室状態であり、確立されたビジネスモデルのもと安定的な収益が期待されます。

通期の見通し

介護保険の認知度の向上と浸透により、高齢者人口の増加とともに、マーケットは拡大しており、その中においても「コムスン」のブランドの醸成と認知度向上、マーケティング力の強化を背景に、訪問介護を中心とした在宅介護、施設介護ともに、前期に引き続き積極的な新規出店及び先行投資を加速させております。

通期の見通しといたしましては、売上高500億円を見込んでおります。

また、今後の方針として将来的なマーケットシェアを獲得する事を最優先としております。

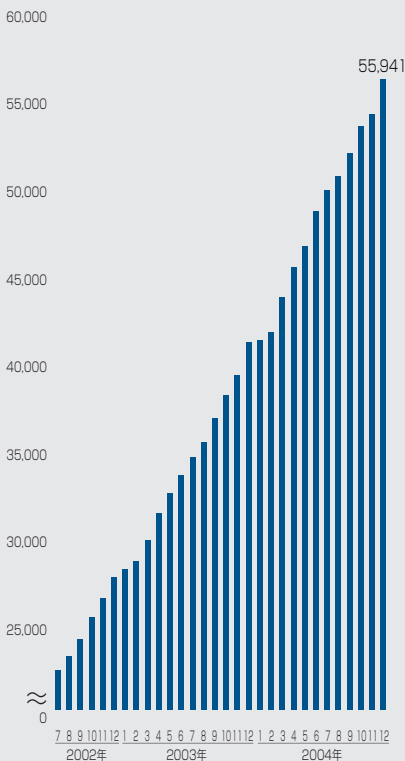
これまで蓄積された企業体力により、今後予想される「介護保険」の制度見直しや報酬単価改定などの変化対応力においても相対的に他事業者と比較して優れたポジションにあると認識しております。

コムスのサービスフィールド

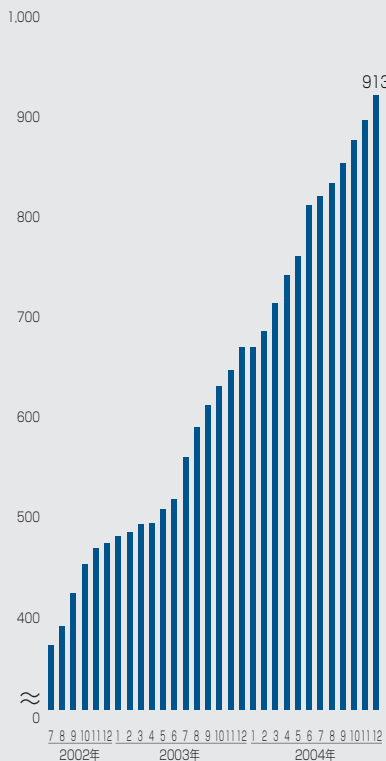
- ケアマネジメント・・・・・・・・・・ 介護相談・要介護認定申請の代行・ケアプラン作成・モニタリング
- 訪問介護サービス・・・・・・・・・・ 身体介護サービス・日常生活の支援・居宅介護サービス（支援費制度）・自由契約によるサービス
- 訪問入浴サービス
- 介護タクシーサービス・・・・・・・・・・  **Comsn Taxi**
- デイサービス
- 在宅介護
 - 訪問看護ステーション・・・・・・・・・・  **COMSN Home Nursing**
 - 訪問歯科サポートサービス・・・・・・・・・・  **DENTAL COMSN**
 - 訪問療養マッサージ・・・・・・・・・・  **まごころベルサービス**
 - 福祉用具サービス・・・・・・・・・・ 販売/レンタル・バリアフリー（住宅修繕）
- 施設介護
 - グループホーム・・・・・・・・・・  **コムスのほほえみ**
 - 介護付有料老人ホーム・・・・・・・・・・  **COMSN HOME**
コムスンホーム
 - シニアマンション
- 教育
 - 介護の専門学校・・・・・・・・・・ **COMSN CARE COLLEGE***

(2004年12月31日現在)

顧客数の推移 (人)

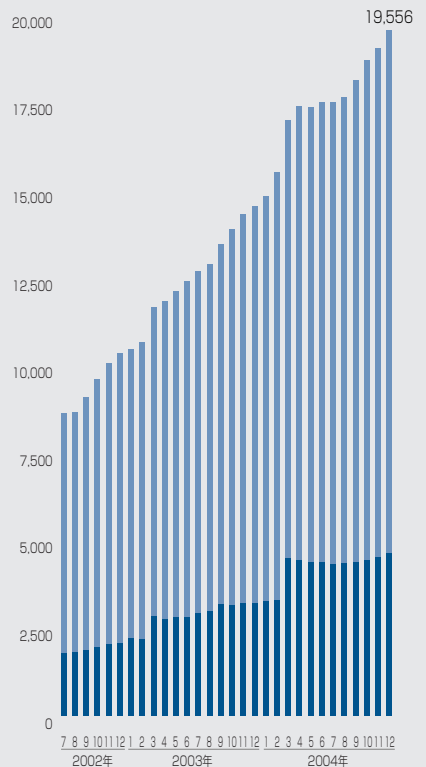


ケアセンター数の推移 (店)



社員数の推移 (人)

■ 正社員 ■ 非常勤社員



中間連結財務諸表（要約版）

中間連結貸借対照表

（単位：千円、千円未満は切り捨て）

	2004年6月期中間期 2003年12月31日現在	2005年6月期中間期 2004年12月31日現在	2004年6月期 2004年6月30日現在
(資産の部)			
流動資産	30,970,328	42,736,154	31,335,414
固定資産	16,238,838	67,022,013	57,331,152
有形固定資産	3,084,788	27,003,447	23,288,925
無形固定資産	8,645,919	32,866,126	28,596,077
投資その他の資産	4,508,130	7,152,439	5,446,150
繰延資産	—	—	—
資産合計	47,209,166	109,758,167	88,666,567
(負債の部)			
流動負債	19,528,680	36,667,341	26,464,344
固定負債	8,365,849	32,701,613	22,263,325
負債合計	27,894,530	69,368,955	48,727,670
(少数株主持分)			
少数株主持分	610,470	1,849,042	42,818
(資本の部)			
資本金	13,674,660	14,118,990	14,118,990
資本剰余金	16,345,269	36,047,102	36,047,102
利益剰余金	△ 11,369,687	△ 9,643,633	△ 10,314,800
その他有価証券評価差額金	57,928	6,756	52,489
自己株式	△ 4,004	△ 1,989,047	△ 7,703
資本合計	18,704,166	38,540,168	39,896,078
負債、少数株主持分及び資本合計	47,209,166	109,758,167	88,666,567

中間連結損益計算書

（単位：千円、千円未満は切り捨て）

	2004年6月期中間期 2003年7月1日から 2003年12月31日まで	2005年6月期中間期 2004年7月1日から 2004年12月31日まで	2004年6月期 2003年7月1日から 2004年6月30日まで
売上高	42,464,524	67,959,879	93,042,107
売上原価	28,061,505	45,487,497	62,301,828
売上総利益	14,403,018	22,472,381	30,740,278
販売費及び一般管理費	11,156,476	18,889,132	24,766,210
営業利益	3,246,541	3,583,249	5,974,068
営業外収益	56,406	153,000	136,223
営業外費用	195,466	780,663	571,062
経常利益	3,107,481	2,955,586	5,539,229
特別利益	84,609	553,403	84,787
特別損失	429,407	349,639	458,027
税金等調整前中間（当期）純利益	2,762,682	3,159,350	5,165,989
法人税、住民税及び事業税	1,300,437	1,579,218	2,429,367
法人税等調整額	△ 12,173	59,838	△ 106,132
少数株主利益	101,477	13,020	137,788
中間（当期）純利益	1,372,941	1,507,273	2,704,966

中間連結貸借対照表のポイント

流動資産

流動資産は、114億円増加して427億36百万円となりました。(前連結会計年度比36.4%増)

これは主に、(株)グッドウィル及び(株)コムスン売上の増加により、受取手形及び売掛金、営業未収入金の合計が59億67百万円増加したこと、ヒュー・マネジメント・ジャパン(株)の子会社化により受取手形及び売掛金が50百万円増加したことによるものです。

固定資産

固定資産は、96億90百万円増加して670億22百万円となりました。(前連結会計年度比16.9%増)

これは主に、(株)コムスンの施設介護事業用の土地購入に伴い、土地等が34億11百万円増加したこと、さらに2004年2月24日付で(株)コムスンを完全子会社したことや、M&Aを積極的に行ったことに伴い、連結調整勘定が41億49百万円増加して322億97百万円になったことによるものです。

流動負債

流動負債は、102億02百万円増加して366億67百万円となりました。(前連結会計年度比38.6%増)

これは主に、短期借入金が38億円増加して212億11百万円となったこと、及び売上規模の増大に伴う費用の増加で、未払費用が31億48百万円増加して87億74百万円となったことによるものです。

固定負債

固定負債は、104億38百万円増加して327億1百万円となりました。(前連結会計年度比46.9%増)

これは主に、(株)コムスンの施設介護事業用の土地購入に対する資金の調達及び当社の持ち株会社化による資金調達機能の集約により、長期借入金が105億円増加して319億円になったことによるものです。

株主資本

株主資本は、13億55百万円減少して385億40百万円となりました。(前連結会計年度比3.4%減)

これは主に、2004年11月に自社株購入を19億81百万円行ったこと、及び中間純利益を15億7百万円計上したことによるものです。

中間連結損益計算書のポイント

営業利益

営業利益は、3億36百万円増加して35億83百万円になりました。(前中間連結会計期間比10.4%増)

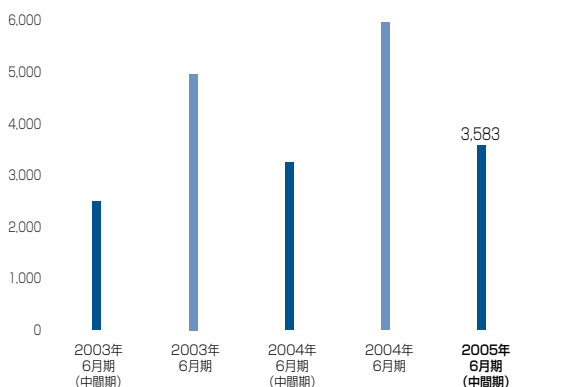
これは主に、(株)グッドウィル、(株)コムスンの売上の増加により、利益額が増加したことによるものです。

中間純利益

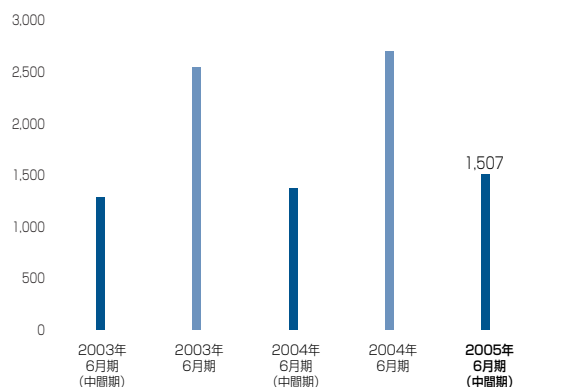
中間純利益は、1億34百万円増加して15億7百万円となりました。(前中間連結会計期間比9.8%増)

これは主に、借入金の増加に伴い支払利息が4億10百万円増加し5億51百万円になったこと、及び組織再編成関連費用1億10百万円が発生している一方で、固定資産の売却益が発生し、税金等調整前当期純利益が営業利益より、4億23百万円少ない31億59百万円となっているためです。

営業利益 (百万円)



当期(中間)純利益 (百万円)



※連結調整勘定(のれん代)償却について

(株)コムスンの100%子会社化等による今中間期償却が7.1億円、TOBにより子会社化したヒュー・マネジメント・ジャパン(株)の今中間期償却が1.2億円、その他M&Aしました子会社の今中間期償却が0.3億円、合計8.6億円が計上されております。前中間期では、2.3億円が計上されており今中間期6.3億円の増額となっています。増額6.3億円分を織り込みますと、実質的には今中間期連結経常利益は35.9億円となり、対前年比15%の成長となっております。連結調整勘定(のれん代)償却は、経常利益段階での減算要因となりますが、外部流出する資金ではありません。

中間連結剰余金計算書

(単位：千円、千円未満は切り捨て)

	2004年6月期中間期 2003年7月1日から 2003年12月31日まで	2005年6月期中間期 2004年7月1日から 2004年12月31日まで	2004年6月期 2003年7月1日から 2004年6月30日まで
(資本剰余金の部)			
資本剰余金期首残高	16,345,269	36,047,102	16,345,269
資本剰余金増加高	—	—	19,701,833
資本剰余金中間期末(期末)残高	16,345,269	36,047,102	36,047,102
(利益剰余金の部)			
利益剰余金期首残高	△ 12,497,870	△ 10,314,800	△ 12,497,870
利益剰余金増加高	1,372,941	1,507,273	2,704,966
利益剰余金減少高	244,758	836,106	521,896
利益剰余金中間期末(期末)残高	△ 11,369,687	△ 9,643,633	△ 10,314,800

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円、千円未満は切り捨て)

	2004年6月期中間期 2003年7月1日から 2003年12月31日まで	2005年6月期中間期 2004年7月1日から 2004年12月31日まで	2004年6月期 2003年7月1日から 2004年6月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 902,482	△ 1,321,531	792,220
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,861,189	△ 8,123,185	△ 23,847,508
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,612,804	11,397,474	24,945,134
現金及び現金同等物の増加額	2,849,133	1,952,757	1,889,846
現金及び現金同等物の期首残高	12,052,670	13,942,516	12,052,670
連結子会社増加による現金増加	—	238,842	—
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	14,901,803	16,134,116	13,942,516

中間連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、161億34百万円となり、前年同期と比べ、12億32百万円増加いたしました。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果減少した資金は、13億21百万円(前年同期は9億2百万円の資金の減少)となりました。

これは主に、派遣・請負事業及び介護・医療支援事業の売上拡大による売上債権が増加したこと、及び利益の増加による法人税の支払が増加したこと等によるものです。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果減少した資金は、81億23百万円(前年同期は18億61百万円の資金の減少)となりました。

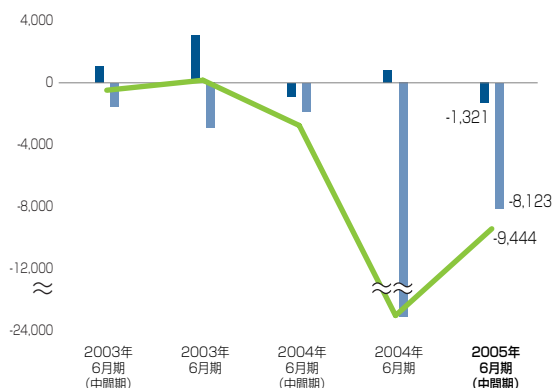
これは主に、拠点の増加により、有形固定資産を取得したこと、及びヒュー・マネジメント・ジャパン(株)の株式取得等によるものです。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果増加した資金は、113億97百万円(前年同期は56億12百万円の資金の増加)となりました。

これは主に、当社にグループの資金調達機能を集約し、銀行からの直接の資金調達を増やしたこと等による長期借入金の増加によるものです。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー
■ フリーキャッシュ・フロー (百万円)



中間単体財務諸表（要約版）

中間貸借対照表

（単位：千円、千円未満は切り捨て）

	2004年6月期中間期 2003年12月31日現在	2005年6月期中間期 2004年12月31日現在	2004年6月期 2004年6月30日現在
(資産の部)			
流動資産	18,615,875	5,454,110	17,298,023
固定資産	35,496,004	76,408,221	57,310,434
有形固定資産	2,648,529	24,526,778	22,499,049
無形固定資産	215,392	6,717	172,938
投資その他の資産	32,632,082	51,874,726	34,638,447
資産合計	54,111,880	81,862,332	74,608,457
(負債の部)			
流動負債	10,317,770	17,054,090	25,905,489
固定負債	7,075,845	29,366,629	10,661,626
負債合計	17,393,616	46,420,719	36,567,116
(資本の部)			
資本金	13,674,660	14,118,990	14,118,990
資本剰余金	16,345,269	16,503,783	16,503,783
利益剰余金	6,645,535	6,801,375	7,374,373
その他有価証券評価差額金	56,803	6,510	51,897
自己株式	△ 4,004	△ 1,989,047	△ 7,703
資本合計	36,718,263	35,441,613	38,041,341
負債及び資本合計	54,111,880	81,862,332	74,608,457

中間損益計算書

（単位：千円、千円未満は切り捨て）

	2004年6月期中間期 2003年7月1日から 2003年12月31日まで	2005年6月期中間期 2004年7月1日から 2004年12月31日まで	2004年6月期 2003年7月1日から 2004年6月30日まで
売上高	24,322,401	6,668,897	52,356,717
売上原価	15,904,102	3,685,775	34,484,969
売上総利益	8,418,298	2,983,121	17,871,748
販売費及び一般管理費	5,883,838	2,362,439	13,372,078
営業利益	2,534,459	620,681	4,499,669
営業外収益	149,244	109,593	235,102
営業外費用	163,943	626,181	411,595
経常利益	2,519,761	104,093	4,323,176
特別利益	84,609	344,663	84,787
特別損失	44,514	83,923	61,704
税引前中間（当期）純利益	2,559,855	364,834	4,346,259
法人税、住民税及び事業税	1,110,000	100,007	1,975,000
法人税等調整額	△ 20,325	111,819	△ 104,896
中間（当期）純利益	1,470,180	153,006	2,476,156
前期繰越利益	5,175,354	6,648,369	5,175,354
中間配当額	—	—	277,137
中間（当期）未処分利益	6,645,535	6,801,375	7,374,373

会社概要

会社名	グッドウィル・グループ株式会社 (The Goodwill Group, Inc.)
所在地	東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー35F
代表者	折口 雅博
設立	1995年2月1日
資本金	141億1,899万円
事業内容	総合人材サービス業
社員数	社員 66名 準社員 12名 計 78名
会計監査人	中央青山監査法人

役員及び監査役

代表取締役会長 兼 CEO	折 口 雅 博
代表取締役社長 兼 COO	川 上 真 一 郎
常務取締役兼 CFO	金 崎 明
取締役	坪 田 一 男
監査役 (常勤)	美 濃 部 義
監査役 (常勤)	杉 之 尾 孝 生
監査役	石 井 成 明
監査役	田 中 保 彦
執行役員	神 野 彰 史
執行役員	樋 口 公 一
執行役員	西 原 達 也
執行役員	青 山 敏
執行役員	川 上 英 明
執行役員	中 元 一 彰
執行役員	入 江 康 文
執行役員	花 田 充 弘
執行役員	大 迫 一 生
執行役員	伊 佐 治 岳 生
執行役員	脇 尾 茂

(注1) 美濃部義、杉之尾孝生、石井成明、田中保彦の4氏は、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律第18条第1項に定める社外監査役であります。

(注2) 取締役坪田一男氏は商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。

社 是

「弛まぬベンチャースピリット」

グッドウィルグループ 十訓

- 一、お客様の立場にたて、究極の満足を与えよ
- 一、夢と志を持ち、常にチャレンジせよ
- 一、困難の先に栄光がある、逆境を乗り越えよ
- 一、物事の本質を見抜け、雑音に動じるな
- 一、原因があるから結果がある、公正に判断せよ
- 一、積極果敢に攻めよ、守りは負けの始まりなり
- 一、スピードは力なり、変化をチャンスと思え
- 一、自信を持って、謙虚さと思いやりを持って
- 一、笑顔と共に明るくあれ
- 一、正しくないことをするな、常に正しい方を選べ

「コムスンの誓い」

私達は、一人でも多くの高齢者の尊厳と自立を守り、お客様第一主義に徹します。

私達は、明るい笑顔、愛する心、感謝の気持ちを大切にします。

私達は、常にサービスマインドを心がけ、真心を込めて介護を行います。

私達は、責任をもってお客様のプライバシーを守ります。

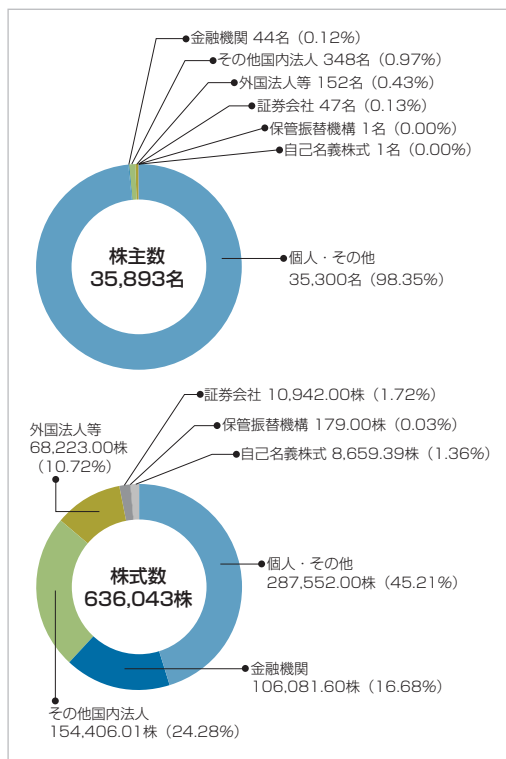
株式の状況

会社が発行する株式の総数	2,100,000株
発行済株式の総数	636,043株
株主総数	35,893名

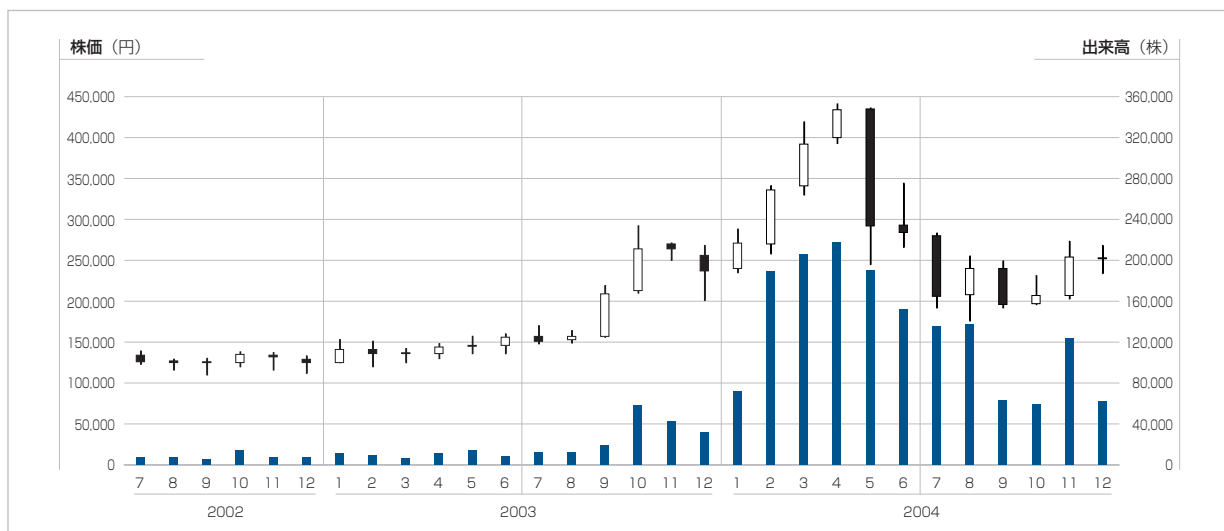
大株主（上位10名）

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
有限会社折口総研	84,240	13.24
有限会社エスフロント	53,801	8.45
折口 雅博	32,160	5.05
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	31,298	4.92
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	23,634	3.71
日本証券金融株式会社	10,864	1.70
バンク オブ ニューヨーク フォー ゴールドマンサックス インターナショナル（エクイティ）	10,194	1.60
大西 幸四郎	9,510	1.49
グッドウィル・グループ株式会社	8,659.39	1.36
日本生命保険相互会社（特別勘定年金口）	7,807	1.22

所有者別株式分布状況



株価及び出来高の推移



* 株価データは、株式分割を過年度に遡及して調整した修正株価を使用しています。

株主メモ

■ 決算期

6月30日

■ 定時株主総会

毎年9月

■ 基準日

毎年6月30日

上記のほか必要がある場合は、あらかじめ公告する一定の日

■ 名義書換代理人

東京都港区芝三丁目33番1号

中央三井信託銀行株式会社

■ 同事務取扱所

東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

TEL. 03-3323-7111 (代表)

■ 同取次所

中央三井信託銀行株式会社 全国各支店

日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店

お知らせ <郵便貯金口座配当金受領サービスのご案内>

今回の配当金から銀行口座に加え、郵便貯金口座（通常貯金口座）へのお振込によるお受取りができるようになりました。ご希望の株主様は、名義書換代理人へ配当金振込指定書をご請求のうえ、お申し込みください。

住所変更、端株買取請求、名義書換請求、配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。

■ 公告掲載紙

日本経済新聞

■ 貸借対照表及び損益計算書掲載のホームページアドレス

www.gwg.co.jp/kessan/index.html

ホームページのご案内

当社ホームページのIRサイトでは、四半期毎の業績の概況や決算短信等の財務情報、プレスリリース等を掲載しております。どうぞお気軽にアクセスしてください。

IRサイト www.internetir.jp/goodwill



 総合人材サービスの
グッドウィル・グループ株式会社
東証一部上場企業 [銘柄コード : 4723]

■ お問い合わせ先：広報IR部

〒106-6135

東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー35F

Tel: 03-3405-9262 / 03-3405-9385

Fax: 03-3405-9448

ホームページ www.gwg.co.jp